

BSE発症牛体内の感染力価の分布状態⁽¹⁾

	感染濃度 (ID ₅₀ /g)	重量 (kg)	ID ₅₀ 感染力価 (一頭あたり+)	全感染力価 との比較
脳	10	0.5	5,000	64.1%
脊髓	10	0.2	2,000	25.6%
三叉神経節	10	0.02	200	2.6%
背根神経節	10	0.03	300	3.8%
回腸	0.032	0.8	260	3.3%
脾臓*	0.32	0.8	26	0.3%
眼球	0.032	0.1	3	0.04%
				99.74%

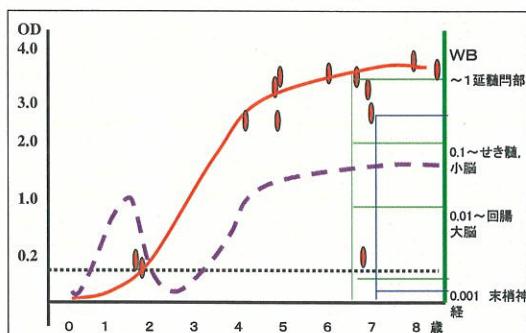
(1) : E U S S C 委員会レポート (1999年12月) を改変

+ : 537kgの牛の場合

* : データによっては感染性のないことがある

N=2-10? (実験感染の32週以後) +スクリイピーの外挿

日本のBSE検査データ



350万頭のと畜場検査および死亡牛検査の結果、13頭のBSE陽性牛が発見された(初発例を除く)。

陽性牛のOD値と年齢の分布は左図のようになる。このうち、神奈川(5例目:緑)と釧路(11例目:青)は、臓器別の異常プリオント蛋白の定量がWBで検査された。

・8,9例目は若齢牛(21, 23ヶ月)でOD値は検出限界に近い

WBの定量評価では成牛陽性例の500~1,000分の1と考えられる。

・5例目と11例目のWBでの定量評価では、門部を1としたとき、脊髄、小脳は1/10、大脳、回腸は~1/100、抹消神経は1/1,000と考えられる。

・成牛の感染価を8,000ID₅₀、50,000ID₁とすると若齢牛の感染価は神経系で500~1,000分の1として8ID₅₀~16ID₅₀、50~100ID₁と考えられる。回腸は成牛と同様の感染価を持つとすれば260 ID₅₀, 1,625ID₁となる。